

大分県東国東郡姫島村方言における 身体感覚を表すオノマトペ

井上博文

はじめに

- (1) 調査地の概要；国東半島の沖合に浮かび、九州東岸域であり、同時に瀬戸内海城の西端に位置する。沿岸漁業を主とするまとまりのある漁業社会である。
 - (2) 調査年月日；平成4年1月15日
 - (3) 教示者；①木戸富貴氏 (f.T.10) [♀]・松原藤三郎氏 (m.S.4)
②高橋辰巳氏 (m.T.4)・高橋氏の奥さん (f.T.11)
 - (4) 調査者・調査場所；井上博文・①木戸氏宅、②高橋氏宅
 - (5) 調査方法・調査時の様子；配布の調査票に基づく。①松原氏が話題をリードしながら、木戸氏の回答を補うかたちでなごやかに進んだ。②夕食後のひととき調査者が話題を出しながら問い聞きを行なった。
- (注「女性で大正10年生まれ」であることを表している。「m」は男性、「S」は昭和生まれを示している。)

I 全身の感覚

1-1. 快不快

サッパリ 快。風呂上がりなど。○アー¹ サッ¹パリ シ¹タ。キ¹モチガ イー。
(f.T.10) ああ、サッパリした。気持ちいい。

1-2. 寒さ

ガタガタ 寒かったり恐ろしかったりするとき。

ドクドク (ゾクゾク) 不快。風邪をひく前などに寒気がするとき。○シェ¹ナカガ
ド¹ク¹ドク¹ シテ ミズ カ¹ク¹ルゴト ア¹ル。(f.T.10) 静脈が冷えて
(静脈)がふるよ。

シブシン (シブーシン) 身体の芯の方が寒いとき。ゾクゾク系がより寒いことを表す。

○ゴンバン ス¹ゴク¹ サ¹ム¹イ。カ¹ラダガ シ¹ンシン スンゴト
ア¹ーン。(f.T.10) 寝てくぬ。静脈がふるよ。

ジーント 寒いとき。

スフスン 風邪をひく前などに背中が寒いとき。○カ¹ジェ ヒ¹キヨンヤ¹ロー。セ¹ナ
カガ¹ スン¹スン シデ¹タ。(f.T.11) 風邪をひきつゝあるのぞうか。背中がスフスフしたよ。

1-3. 暑さ

ホフホカ 快。身体全体が暖くなる。

ボフボカ 快。身体全体が暖くなる(ヌクモル)とき。○キョ¹ーワ ボ¹カ¹ボカ
ヌ¹キ¹ー ナ¹ー。(f.T.11) 今朝が暖かい。

II 皮膚の感覚

ヒリヒリ 日焼けや火傷。擦り傷。○ヒ^ニ ヤケタ トキヤー ヒ^リヒリ スル、ア^ーチ ト^シヤカラ ニ^ハンモ・サンペンモ^ー モー コ^ドミンジ ヨー^ワ カ^ワモ ナ^ンモ ムケテ。(f.T.10) 日に焼けた時はヒリヒリする。暑い年だから二日も三日も暑い子どもはあまり疲れてお出で。

ヤビヤビ 火傷のときのような熱くなるような痛みするとき。○ナン^カ シッ^カリ ヤ^ビヤビ スンヨ^ナ イ^テーノトカ…。(f.T.10) 何かとてもヤビヤビするよき痛いのとか…。○ア^ツク ナッ^タ トキ^ニ ^ナ。ア^{ブラ}レ^ルヨ^ナ カ^ンジ。ホ^ノホデ ア^{ブラ}レ^ルヨ^ナ。(m.S.4) 蒸(ナツ)時にね、あられるような感じ。あてあられるような。

ベタベタ (ベタベタニ) ○キョー^ワ ^アセ ビッ^ショ^リ ケー^チ ベ^タベター スル。(f.T.10) 汗は汗をかいてベタベタする。

ガサガサ (ガサガサ) ・カサカサ 肌が荒れているとき。

ゴゾゴゾ (ゴゾゴゾ) 背中などに何か入っているとき。○セ^ナカニ ゴ^ゾゴゾ スル^ノ ^ナ。ナン^カ モ^ノガ ハイッ^テ ^ナ。ナン^カ ハ^ダザワリガ ワ^ルー^イコト ユーンジャ^ワ。(m.S.4) 背中(ゴゾ)するのほね。何かものが入ってね。何か肌ざわり悪いことをいうんだよ。

モサモサ (モシヤモシヤ) 肌と着物との間に異物があって違和感を感じるとき。

モゾモゾ 虫が這い回るようなとき。

ゴゾゴゾ (ゴ下ゴド) 虫が這い回るようなとき。

ツルツル (トアルトアル) ○ハ^ダガ ト^{アル}ト^{アル} シ^デー^タ。(f.T.10) 肌がツルツルしじつた。

ズキズキ (ズキンズキン、ズキーンズキン) ・ズキン 鼓動を打つような痛み。ズキズキに比べてズキンズキンの方が痛みの間隔が長く大きい。○ウ^ミガ イ^リヨ^ンノ ヤ^ロー。ズ^{キンズ}キン ス^ン。(f.T.11) 足が入りつつあるのさう。アツツする。

ニシヤニシヤ (ニシヤーニシヤ、ニシニシ) 何となく痛いとき。ズキズキ系が程度大。

チクチク (チュクチュク) ・チクツト 針で刺したり虫にさされたとき。犬などに噛みつかれたときは、カブツト・ガブリ(ガボリ・ガッブリ・ガブツリ)を使う。

III 頭部の感覚

3-1. 頭

ガンガン (ガンガン) 頭全体が痛いとき。ズキズキ系は頭の芯が痛い。

○ア^タマガ ガー^ンガン シテ^ー モー ネ^ラレンヤッ^タ。(m.S.4) 頭がガンガンしてもう眠ることが出来なかつた。

ズキズキ (ズキンズキン、ズキーンズキン) ○ア^タマガ^ズキズキ イ^テー。

(f. T. 10) 頭が疼く。

ニシヤニシヤ 頭全体が何となく痛いとき。○ア'タマ'ガ ニ'シャ'ニシヤ ショ'ッ。

(m. T. 4) 頭がニシヤニシヤしている。

3-2. 顔面

クワット 一気に熱くなるとき。○カ'オ'ガ 'クワ'ット ナッ'タ。ア'コ' ナッ'タ。(f. T. 11) 顔がワットなつた。赤くなつた。

ホーット 動詞としてホテルがある。○ハ'ズカシ'デ カ'オガ' ホ'テッ'チョン。(f. T. 10) 暑がしいから熱くなっている。

3-3. 目

シバシバ 目が疲れたとき。○ネ'ムト'デ 'メ'ガ シ'バ'シバ シ'デ'タ。(f. T. 11) 眼がシバシバした。

ゴロゴロ 異物が入ったとき。

3-4. 耳

ワンワン (ワフワンとも) 熱があつて頭がぼうつとして、耳の中で音がするようとき
○コ'ー'ネツ'ナン'カデ ア'タ'マ'ガ コー'ナン'カ 'ナー。ポ'ーン'テ
スル'ヨナ'ー'オトガ ス'ル トキオ'ー' 'ワン'ワン ス'ル'チュテ'ー。
(m. S. 4) 音など音がこうにかなえ。ホーンとするような音がするときをワフワフするという。

ワンガン 耳の中で大きな音がするようとき。

ジュクジュク (ジクジク) 汗がでるとき。

3-5. 鼻

モダモダ (モサモサ)・モサモサ くしゃみが出そうでないとき。○ク'シャミ'ガ
デ'ソー'ニ 'ア'ール'ケド ナカナカ デ'ナ'ー'イ トキノ カ'ン'ジ。
(m. S. 4) くしゃみが出さなければ、なかなか出ないときの感じ。

モフモフ くしゃみが出そうでないとき。

ムズムズ (ムジユムジュ) くしゃみが出そうでないとき。

クシユクシユ (クシユクチュ) 鼻の奥に鼻水や膿があつて出そうでないとき。

○モー デ'ソー'ニ 'ア'ール'ケド ナン'カ デ'ラー'ズ ク'シユ'クシユ
スル'チュ'テ。ク'シユト'クトカテ 'ユ'ー'ヨ。(m. S. 4) もつ(鼻水)が流そうだけれど
なかなか出てくシユクシユするという。クシユクとかと言う。

ツーンツ わさびなどを食べてたとき。

3-6. 口

(口全体)

ネバナバ (ネバナバ) 納豆などネバイものを食べたとき。

ヌルヌル (ヌルヌル) 山芋などを食べたとき。

モサモサ (モシヤモシヤ) 口の中にごみなど異物が入ったとき。

シブシン (シブシン) 冷たいものを食べたとき。○ク'テン'ナ'カガ シ'ン'シン

スルチュ^一ツカ「ナ」。(f.T.10) 口中がツツンすると言ふかた。

ハ^一ハ^一・ハ^一ツ はつかや辛いものを口に入れたとき。○ア「ノ^一 ナン^一カ^一 ハツ^一カミタイナノ コ^一ン フ^一ツ^一カ「ラ^一イモノオ ク「チニ イレタ。「ハ^一ツ^一ハ^一 スル^一チュ デ。(n.S.4) あ、おん、はつかや辛いものを、この、辛いものを口に入れた。(そんとき)ハ^一ハ^一すると言ふ。

ヒ^一ヒ^一 辛い(カライ)ものを食べたとき。

(歯)

ガ^一ツガ^一ツ 寒いとき。○ハ^一ガ ガ「ツ^一ガ^一ツ ユ^一。(f.T.10) (寒くて)歯がガガガ。

ジ^一ント 石ころなどを知らずに嚙んで芯まで痛みを感じたとき。○ハ^一ガ「ジ^一ント シタ。ハ^一ノ「ネ^一マデ コ^一イ「タ^一ミガ コ^一。(f.T.10) 歯がジントした。歯まで痛む。

ニ^一シャニ^一シャ(ニ^一シャ^一ニ^一シャ) 歯がうずくとき。○ニ「シャ^一ニ^一シャ ウ「ズ^一ク。(n.T.4) (歯)ニ^一シャ^一うづく。

(舌)

ヒ^一リヒ^一リ(ヒ^一リ^一ヒ^一リ)・ピ^一リピ^一リ 辛いものを食べたとき。

ヤ^一ビヤ^一ビ(ヤ^一ビ^一ヤ^一ビ) 辛いものを食べたとき。○ク「チ^一ンナ^一カ モ^一ー ヤ^一「ビ^一ヤ^一ビ シテ ビ^一リト^一ク。(f.T.10) 口中、おんやびしてのりする。

3-7. 喉

カラ^一カラ 喉が渴いたとき。○モ^一ー「ノ^一ドガ カ「ラカラヤ^一カラ ミ^一「ド^一ー イ^一ツ^一ベク「レ^一。(n.S.4) おんカラカラが水を飲む。

ジュ^一エ^一ジュ^一 風邪などをひいて息苦しいとき。

ヒ^一ユ^一ヒ^一ユ^一 息苦しいとき。

IV 胴体の感覚

4-1. 肩

動詞としてゴ^一ル(凝る)がある。

4-2. 胸

ド^一キド^一キ 驚いたときや恐ろしいときなど。

キ^一ユ^一ット 悲しくて胸がしめつけられるとき。

ジ^一ン 悲しいとき。

ム^一カム^一カ(ム^一カ^一ム^一カ) 気持ちが悪いとき。

4-3. 腹

(空腹)

キ^一ユ^一キ^一ユ^一 空腹のとき。○ハ「ラガ ハツ^一テカッ キユ^一「ト^一ク。ム「シガ キユ^一「キユ^一 ユ^一。(f.T.10) 腹がへってぐぐぐ。おんキユ^一キユ^一。

ワ^一グ^一 空腹のとき。

(満腹)

ダブダブ 水やお茶を飲みすぎたとき。○ミ'ズ ノ'ミス'ギテ ハ'ラ'ガ ダ'ブト'ク。(f. T. 10) 水を過ぎて腹が膨らむ。

タボツタボン (タッポツタボン) 水やお茶を飲みすぎたとき。ダブダブよりも程度大。
チャブチャブ 水やお茶を飲みすぎたとき。

カボカボ 水やお茶を飲みすぎたとき。○ミ'ズ ノ'ミス'ギテ ハ'ラ'ガ カ'ボ'カボ'スル。(f. T. 11) 水を過ぎて腹が膨らむ。

パンパン 満腹のとき。

(腹下し)

ガラガラ 下痢(タレガブル)の前。グダグダの前の状態。

グダグダ 下痢のとき。○ハ'ラ'ガ グ'ダ'グダ シ'ダ'シタ。タベスギジャ'ロ'ー。(f. T. 10) 腹が下痢になると、食べざらぬ。

4-4. 胃

ジツジン (ジツジン) ○シ'ン'バイゴ'ト 'ナン'カデ イ'ノ チョーシガ ワ'リ'ー'チュー'ノガ ヤッパ ソ'ノ 'ト'キワ' モー ジ'ー'ンジン'ヤ 'ナ'。(m. S. 4) 腹をこきり割る(胃が弱)の音、やがてそのときはお腹が痛む。

ニシャニシャ (ニシャニシャ) 全体的に痛いとき。

キリキリ 一部分(ヒ下トコロ)が刺すように痛いとき。

4-5. 尻

ムズムズ 居心地がわるいとき。

モゾモゾ 早く帰りたいときなど。○シ'リ'ガ'ー オ'チツ'カン ト'キ 'ナ'ー。(f. T. 10) 尻が痒いとき。

V 手足の感覚

(手)

ブルブル 震えるとき。○ブル'ブル フ'ルイヨ'ン。ジ'モ ナン カ'カレ'ン ト'キガ 'ア'ンケド 'ナ'ー。(f. T. 11) ブルブル震えている。字も何も書けないときもある。

(足)

ガタガタ 足が震えるとき。○コ'ワイ'モノ ミテ'モー ガ'タ'ガタ 'ナ'ー。フ'ルー ト'キ'ニ 'ナ'。(f. T. 10) 動いのも足がガタガタ。震える音。

カクカク 寝れて膝が立たないとき。○'タ'ツ'ノ'ガ タ'テレン'ヨ'ー'ナ ス'ワリ'コ'ミ'ソ'ー'ニ 'ナ'ル。カ'ク'カク 'ス'ル。(m. S. 4) 立つのが立たないとき、寝り込みそうになる。かかめる。

グツグツ 寝れた(タレタ)とき。

(その他)

ヌルヌル (ヌルツト) ぬるぬる。石鹸はツルツルで、ヌルヌル・ヌヌヌメは使わない。

ヌヌヌメ (ヌヌーヌメ) ぬめぬめ。○「ウ」ナギトカ。ナ「マズト」カ 「ナ」。ヌ「メー」ヌ
メ シテ コ「カワレ」ン。(f.T.10) ぬめぬめとぬめぬめ、ヌメーヌメしてつかぬぬ。

VI 関節(骨)の感覚

ボキボキ (ボッキボキ) ・ボキツト (ボキツト) 骨が折れるようなとき。○コ「ン」ク
「ピオ」ウゴカシ「タ。ボ「キツ」ト シ「タ。(f.T.10) この骨が折れた。ボキツトした。

グチツト 骨が曲がったとき。

キリキリ (キリキリー) 刺すように痛むとき。○ア「シ」ガ ヒ「ザ」ガ キ「リ」キリ
スルー「ガ」 「ナ」。ネ「チェツ」テカラ 「ナ」。キ「リ」キリーチ ス「ル」トキ
ガ ア「ル」ガ 「ナ」。(f.T.11) 刺すように痛む。刺して。キリキリと刺すときがある。

まとめ (いくつかの気付き)

(1) 語アクセントは4音節語の場合、○●○○のように第二音節が高くなるのが普通である。同一の語であっても、時に○●●●となる場合がある。ヒリヒリ・ヒリヒリ、ヤビヤビ・ヤビヤビ。また●○○○となり、共通語のそれと一致する語も存する。

(2) オノマトペの同音反復の一部に接尾語「トク(ドク)」が下接して、例えばドクドク(ソクソク)からドク下ク(ソク下ク)がつけられることが盛んである。前接部の感覚(状態)が持続することを表現している。いくつかの語を挙げる。ガサ下ク、モサ下ク、ヒリ下ク、ヤビ下ク、クラ下ク、ヌルツク、クシエ下ク、ネタ下ク、ニシヤ下ク等々である。いずれも前部要素の状態が続くことを表す。ヒリ下クであれば、「ヒリヒリする」感覚が持続していることを表すのである。また、オノマトペとしてガタガタ、動詞としてガタ下ク、名詞としてガタブルイとそろっているものが存する。

(3) 身体の調子が何となく悪い状態を、ナマジクツという。「○キョー」ワ ナ「マジクツヤ」ホデ ノー。オ「キ」イ「カンジャツ」タ。(m.T.4) 今身体の調子が悪いから。悪いのか。」。また、「シヤーント」ゼン(しゃんとしない)と表現する。

(4) オノマトペ以外で身体感覚に関わるものとして、形容詞、動詞などが多く認められた。いくつかを示すと、形容詞として、イジラガイー<むずがゆい>、ケブチー<煙たい>、ウスラサミー<何となく寒い>、エアイ(エーアイ)<えぐい>。動詞として、シエク(ナンカ コー イヤラシー イテーヨージャ。(m.T.4) 何かうやうやしくぬいぶ。)、シミル(○ツ「メト」デ 「ハ」ニ シ「ミル。(f.T.10) ぬれてぬいぶ。)等々である。

(いのうえ ひろふみ 広島大学文学部)